

本学は、人々の健康と生活の質の向上を目標に、ヒューマンケアを提供する人材の育成を教育理念としています。平成17年度に採択された、現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム(現代 GP)「下北を元気にする学生参画型教育」は、本学の教育理念である“Human Care”のもとに設定した、①人間性豊かな人材の育成、②保健医療福祉の発展に寄与している人材の育成、③地域特性へ対応できる人材の育成、④グローバル化への対応、⑤地域社会への貢献、という5つの基本理念の一つとして取り組んできた“地域貢献”の成果を反映してできたものです。

採択にあたっては、過疎地がかかえる保健医療福祉の問題に関する取り組みとして、地域貢献事業と学生参画型教育をリンクさせた点が評価されたもので、全学的に下北地域の保健医療福祉の向上に取り組できた実績があったことが実現可能性の高い取り組みとして評価されました。

この事業の企画には、下北地域における次のような実績が背景にあります。①県のバックアップを受けて平成15年度から包括ケア推進への取り組みが下北地域で始まり展開中であること、②以前から下北地域を3学科の教育フィールドとしてきたこと、③本学教員の複数の研究グループによる活動が成果を上げ始めたことなどの実績があったことです。

こうした実績をふまえ、本取り組みでは、「地域」・「下北地域での学生参画型教育の展開」・「教員による研究・研修支援」が三位一体となって、過疎地域における住民の健康寿命アップを目指して活動してきました。

この成果として、人材育成においては、地域で暮らす住民を元気にする能力をもった人材を育成できたこと、本学の理念であるヒューマンケアの実践について理解を深め、また保健医療福祉の各専門職に伝えることができたこと、下北地域に就職する学生がみられたこと、等が大きな成果と思います。また、これらの経験を生かし、本学のカリキュラムの再構築を行うことができました。

教員による研究・研修活動では、下北地域の専門職の自立的活動が促進されたことは大きな成果です。このような活動の基盤が形成されるとともに、新たな研究活動も生まれました。

下北地域センターは規模を縮小しますが、むつ総合病院の御厚意により今後も存続し、活動の拠点を得ることができました。

こうした成果を得ることができましたのも、下北地域の住民の皆様、保健医療福祉の専門職の皆様へのたいへんな御尽力、御支援があつてのことと、深く心にとめたいと思います。

今後も下北地域の皆様には、青森県立保健大学下北地域センターを活用していただくほか、これまで4年間にわたり、地域の関係機関の皆様の御支援・御鞭撻に対し心から感謝を申し上げます。

平成21年3月

青森県立保健大学長 リボウィッツよし子
取組担当者 副学長 上泉和子